

も高くないのは残念なことである。別に就職のための勉強や点数主義になれと要求しているのではない。

人生において大学生活はほんの一部にすぎず、大きな部分は、社会の分業の一翼を担って生活手段を確保する生活で占められている。自分の一生が生きがいのあるものとして設計できるかどうかのかなりの部分を、就職という関門を通じてデザインしなければならないのである。その意味で時たまあられる就職浪人は、本人の意図が堅固であれば全面的に

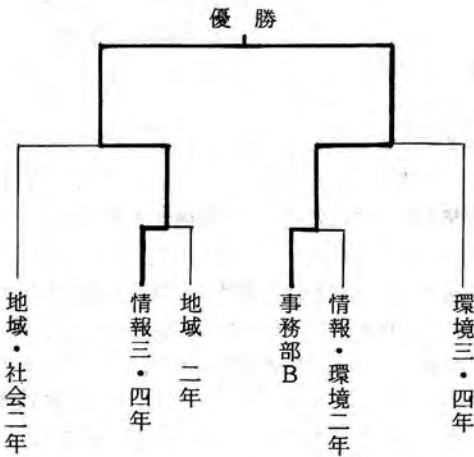
否定されるべきではあるまい。

最後に、ガルプレイスの「不確実性の時代」より一文を引用しておこう。彼は、キャンパスの英雄よりもガリ勉の方が社会的成功の率が高いという。私はこの文に全面的に賛成しているわけではないが、就職委員の側からみて問題なのは、このどちらのタイプでもない無気力学生が多いということではあるまいか。

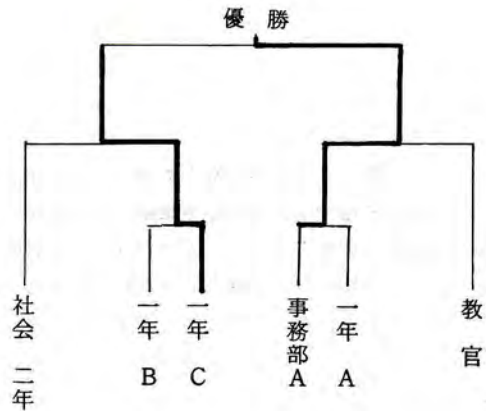
◎総合科学部長杯争奪ソフトボール大会◎

結果報告

<決勝トーナメント>



<敗者トーナメント>



決勝戦は日没引き分けで、情報3・4年と事務部Bの2チームが優勝

当日は悪天候にもかかわらず学部長をはじめとし、多数の教職員、学生のみなさんにご参加頂きありが

とうございました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

学部の記録

(人事異動)

《採用》

10. 1 佐竹 昭 (日本研究 助手)
10. 15 仁連 孝昭 (社会文化研究 助手)

10. 1 三分一恒男 (学務第一係)
附属図書館閲覧課運用係より

《昇任》

10. 1 戸田 吉信 (ヨーロッパ研究 教授)
総合科学部助教授より
甲斐 祥郎 (社会文化研究 教授)
総合科学部助教授より
上里 一郎 (人間行動研究 教授)
総合科学部助教授より
高橋 規矩 (英語 教授)
総合科学部助教授より
11. 16 近藤 勝彦 (自然環境研究 講師)
総合科学部助手より
12. 1 北村 靖治 (保健体育 教授)
総合科学部助教授より

《転任》

10. 1 川野 雅英 (学務第一係)
大分大学工学部へ
11. 16 村上 秀子 (経理係)
東京大学工学部へ

《辞職》

8. 31 佐々木祥子 (情報行動基礎研究)
射場 純子 (情報行動基礎研究)
10. 31 北原 義典 (情報行動基礎研究)

《改姓》

11. 24 木本喜美子 (社会文化研究 助手)
旧姓 酒井

《配置換》

(教官の部)

10. 1 岡崎 忠弘 (ドイツ語 助教授)
北海道大学文学部より
12. 1 今井日出夫 (自然環境研究 教授)
広島大学医学部へ

(事務の部)

。ふ音

総合科学部教授 谷田部文吉氏は、10月8日逝去
されました。

享年55歳

ここにつつしんで哀悼の意を表します。

海外渡航者

(出張および研修)

小林 文男 (アジア研究 助教授)

渡航先 インドネシア

目的 インドネシア・イスラム社会の史的実地
調査

期間 54. 11. 12～54. 12. 22

鈴木 修次 (アジア研究 教授)

渡航先 中華人民共和国・香港

目的 中国西南部の少数民族調査並びに杜甫研
究

期間 54. 9. 12～54. 9. 26

荒木 博之 (英語 教授)

渡航先 大韓民国

目的 盲巫についての民俗学的共同研究調査

期間 54. 9. 28～54. 10. 4

塩田 實 (情報行動基礎研究 教授)

渡航先 台湾

目的 学術交流、共同研究および特別講義を台
湾の淡江文理学院にて行うため

期間 54. 9. 5～55. 1. 31

芝田 進午 (社会文化研究 教授)

渡航先 ヴィエトナム・タイ

目的 「アジアの将来」についてのシンポジウ
ム出席及び学術交流

期間 54. 10. 25～54. 11. 10

正法地孝雄 (情報行動基礎研究 助教授)

渡航先 フィリピン

目的 第42回国際統計学会議出席

期間 54. 12. 3～54. 12. 15

***** 編 集 後 記 *****

「飛翔」第14号をお届けします。教職員と学生から成る編集委員会の努力と総合科学部の構成員各位の御協力によるものです。

本号に御寄稿下さった方々に特にお礼を申し上げますとともに、今後一層の御支援をお願いいたします。

(広報委員長 坂本)

年度初めに有志学生によって提起されたコース決定問題は、教授会、コース・講座委員会の検討を経て決定基準の改善と明確化という結論をもって一応の終結をみました。本号においては、少々遅ればせながら、座談会形式でこの一連の経過と今後に残された問題点を明らかにしようと試みました。果してどのくらいその意図が達せられたかはなほ疑問ではありますが、この問題について門外漢であられた方々にとって参考となれば幸いです。この問題を契機として、編集部では学生の意見が学部の運営にどのくらい影響力をもちうるのか、またそれにどう関わっていいのか、そして「飛翔」の「知らせる」役割とはどうあるべきなのかについていろいろな意見が出されました。次号では「総合科学部を考える」という年間のテーマに沿って学部の統合移転計画の概要を紹介したいと考えていますが、これらの課題をより深めたものにしたいと思います。

(編集委員 浜田)

— 原 稿 募 集 —

「飛翔」が自由投稿で埋まるほどの投稿を期待しています。内容の種類は問いません。特に学生諸君の研究発表の場として大いに活用してください。また表紙を飾るイラストや写真も募集しています。どちらも編集委員か厚生補導係へ随時持ち寄って下さい。